

第18回 登別市中小企業地域経済振興協議会 議事録

平成27年6月11日(木) 18時30分～

登別商工会議所 会議室

- ◆出席委員：松山 哲男 会長
齋藤 正史 副会長
望月 一延 委員
近井 一夫 委員
小幡 功 委員
藤田 康 委員
吉元 美穂 委員
垣内 登紀子 委員
安達 陽子 委員
伊奈 綾 委員
千葉 洋子 委員
井上 昭人 委員
計12名

- ◆事務局：商工労政グループ 穴戸商工労政・新エネルギー主幹
奥田主査
竹中担当員

- ◆登別商工会議所事務局：田村事務局長

- ◆議題：(1) 登別市地域経済実態調査に係る調査項目について
(2) 協議会への参加者の募集等について

【要旨】

項目	発言者	内容
<p>1. 登別市地域経済実態調査に係る調査項目について</p>	<p>会 長</p>	<p>ご多忙のところお集まり頂き、ありがとうございます。第18回の協議会を開催します。</p> <p>今回の会議の目的は、1. 登別市地域経済実態調査に係る調査項目について 2. 協議会委員以外の参加者募集 について の二点である。</p>
		<p>まず一点目、登別市地域経済実態調査に係る調査項目についてであるが、アンケート調査内容の確認として、現段階の案を作成した。皆様の方にメールにより配布しているが、設問内容について皆様のご意見を伺いたい。</p> <p>これは、北海学園大学の大貝准教授が帯広市、恵庭市で既に行ったアンケート調査の項目を活用しながら作成したものである。皆様から意見を頂きたい。</p>
	<p>副 会 長</p>	<p>取引の状況について、卸売業からの仕入れであれば、ほぼ市外からの仕入れに偏ってしまう。中でも、卸売業者から大型店やチェーン店に物が集中してしまい、小規模の小売店に物が入りづらいという実態がある。登別市内のこのような現状が浮き彫りになる設問構成をしていきたい。</p>
	<p>事務局</p>	<p>恐らく、取引先に関する設問の結果として見えてくる答えは、登別市内には原材料を扱う事業者が少ないということであり、そこが問題として浮彫になったとしたら、原材料を扱う事業者や体制を立ち上げるという結論になるだろう。</p> <p>ただ、今の設問のままでは、元々少なかったのか、減少して少なくなったのかが明確になっていない為、問いかけ方を改善したい。</p>
	<p>吉元委員</p>	<p>サービス業に置き換えると、仕入れという概念はないので、普段使用している消耗品について答えてもらうように前置きを入れるべきだろう。</p> <p>また、市内企業を意識的に活用しているかどうかが見えてくる設問があるとよい。</p>
	<p>小幡委員</p>	<p>5年前と比較すると、物流がものすごく変化し</p>

2. 協議会への参加者の募集

会 長

ていると思う。市内のほとんどの企業がそうだと思う。地元企業と市外が資本の企業とは違うと思う。趣旨として、どの答えを必要としているのかを明確にすべきである。

地域におけるお金の動きを見る必要があることから、市内に立地している企業を「市内企業」と捉えて回答してもらうようにしたい。

内容について、事務局と大貝准教授との間で再度調整していただき、6月中の発送に向けて準備を進めていただく。

続いて、2. 協議会への参加者の募集に話を移したい。協議会への参加者に依頼する内容の再確認として、(1) 地元資源の洗い出し、(2) 地元資源の活用策を検討する専門部会への参画 についてのお願いをしていきたい。

先に、地元資源に関するアンケート調査を行ってきたが、この調査は協議会が行う協議の参考資料として実施していくものであるが、新たに参加していただく方々にも、違った切り口から地元資源についてご意見をいただき、活用策が固まってきた段階で専門部会にも参画して具体的な検討に入って頂きたいと思っている。

副 会 長

地域資源に特化した視点以外に、別の切り口から見た専門部会も行ってみてもいいのではないだろうか。例えば、エコノミック・ガーデニングという経済振興の手法がある。このような手法を取り上げた専門部会があってもいいのではないか。その場合には、専門的な知見を持った方にも入って頂く必要があるので、現段階で参加者を絞り込むことができないのではないか。

会 長

まずは各産業並びに登別経済全体が抱える問題・課題の洗い出しを行ってきた。今後は、登別市地域経済実態調査の報告、地元資源に関するアンケート調査、そして専門部会による具体策の検討を行っていきたいと考えているが、流れとしてはいかがだろうか。

垣 内	内容を掘り下げて専門的な所までじっくり検討していくことに対して、私たちがついていけるものなのか、不安は感じている。
副 会 長	エコノミック・ガーデニングには、登別経済の柱に着目し、官・民・学・金が連携してそこを伸ばそうという考え方があるが、これは綿密な研究が必要であり、研究する場が必要であると考えている。これを単一の団体が主体となって動かすことは困難である。この協議体の中で取り上げ、市への提言に盛り込むことができればと考えている。
会長	大きな方向性として取り上げていただいたことは大切なことだと思う。中小企業・地域経済の振興に向けた方向性を打ち出す中で、専門部会の役割として具体的な取り組みを打ち出していく必要がある。
安達委員	まずは地域資源のアンケートに出てくる意見を活用した振興策の検討に注力した方が良いのではないだろうか。
井上委員	大きなテーマと具体的な取り組みは、どちらも持っていなければならないと思う。地元資源に関してアンケート調査を行っている現状の中で、まずは地元資源に関してこの協議会の中で議論していった方がいいのではないだろうか。地元資源があるのに活用し切れていないのか、それとも無いのか、そこを今一度明確にするための議論を行う必要があると感じている。
会 長	今すぐに専門部会を立ち上げることは困難であることから、まずは地域資源に関するアンケート調査の集計及び協議会委員間での協議を踏まえた具体的な方向性を協議した後、専門部会を設置して参加者を増やして多くの方の意見を頂く場を設けていく。
	次回の開催時には地域資源に関するアンケート調査が回収されているので、次回はその結果を見ながら委員間協議を行っていく。お疲れ様でした。

